

黄金色の秋をくわえこんで

風が 流れてゆく

紅紫の萩の花は

小波のように腰を揺り

すすきの大海原は

天女の羽衣のように

舞い騒ぐ

隔絶した峰に

霧は執拗に絡まりつき

刈り入れの後の

やけに整えた装いの中から

初冬の足音が響いてくる

くまとの風

NO. 90 '87/12月

